

「持続可能な地域づくり」ワーキンググループ 第7回会議 議事要旨

11月24日(水)14時～16時開催

於: CANPANセンター(海洋船舶ビル8階) セミナールームにて

本日の議題:

「地域円卓会議」を具体的にどういうテーマ、地域で推進していくか。

どういう条件が整ってくると地域円卓は促されるか。阻害要因は何か。

どうやったら各セクター内でも話を進めやすいか。

次回会議で協働戦略案のたたき台を提示する際の様々な条件を出していきたい。

<地域円卓会議を呼びかける際にどういう要素が必要か>

- ・ テーマ決めないとどこに呼びかけたらいいのかわからず集まらない
- ・ しかしテーマ自体も地域によって違う。
その地域の旗振り役になる団体のテーマ次第ではないか。例示として挙げるのはいい。
- ・ 各地域で円卓会議つくりたい人たちに対してどういう機能提供できるのか、から考えればいいのではないか。
- ・ 「こういうことが必要」「こういうことしましょう」「そのためにこういうツールがあります」という例示は必要(それが協働提案)。それを見つ、「この機会を通じてこの地域でこういうしかけをしたい」という手が挙がってくるようにしたい。
- ・ 主催する人の資格と主体のオープンさについては議論すべき。
「地域円卓」は誰がやってもOKというものではない。
どういう主体が、どういう条件そろえ、どこに声かけ、どこまでオープンにするのか。
- ・ なぜ我がセクターにとってこの地域円卓が重要なのか、という位置づけはわかるものに。
- ・ ただ会議に呼ばれて参加するだけでは参画ではない。貢献したことにはならない。そのセクターの役割を果たせるかどうか重要。例えば金融セクターとして参加したことになるためには、ファンドづくりなど、金融に関与しないといけない。
- ・ 円卓会議とはどういうものであるべきか、という案をまとめないといけない。
「地域円卓」という言葉を定義づけるものの提示を。
その際には「できることを持ち寄って課題解決しよう」という前向きな姿勢にしたい。
- ・ 予算化によるなんらかのインセンティブはつけられないか。
- ・ 地域円卓での意見を吸い上げて提案する場合も必要。(→地域円卓会議の全国会議など)

<地域円卓会議の呼びかけ方と阻害要因>

- ・ その地域のNPOがテーマ掲げて呼びかけ、企業人も個人として参加できるのであれば進めやすい。

NPOがテーマを呼びかけ、その地域の商工会等経済団体も会員企業に参加を呼びかけ、関心ある企業の職員が個人として参加するなど、組織としての参画を前提にしなくてもいいものにしたらどうか。

- ・ 所属する組織を背負いながら出なければいけないのが疎外要因。
組織の看板は持ちながら、その中の一市民としてやりたい人いないですか、組織としてのコミットの以前に「知恵」を出してください、とすると話しやすい。
組織的な縛りをゆるやかにしてあげるといいのではないか。

<地域円卓会議の進め方>

●おそらく二段階論。

第一段階としては個人として参加しつつ「知恵」をください、というスタンスで。

会議形式は第二段階。

参加できる現場を作ってから、会議体をつくる。

それぞれが参加したいテーマに参加する。

<成果目標>

- 共通目標設定ができる段階の会議体が10-15前後、そこから「地域円卓会議」として立ち上がるのが2、3というイメージ。

共通目標(15)→発足(3?)→継続(?)

「地域円卓会議」として立ち上がったところにはフォローが必要。

一段階目は「子ども」のような包括的なテーマで集まり、目標設定すること。

目標設定して円卓会議を開催し、役割分担までするのが二段階目。

- ・ 様々なテーマがあってもいいが、「円卓会議」として成果を出す際に横軸でつなぐ指標などがあるといい。
- ・ すでに協働で開催している会議を「地域円卓」として認定する、ということも視野に入れたい。
(認定という言葉を使うかは要検討)
このWGから会議体を新しく生み出すことより、「地域に円卓的手法がある」ことのほうが重要。
新規の会議体の積み上げ+既存の組織体の認定で。